

第1章

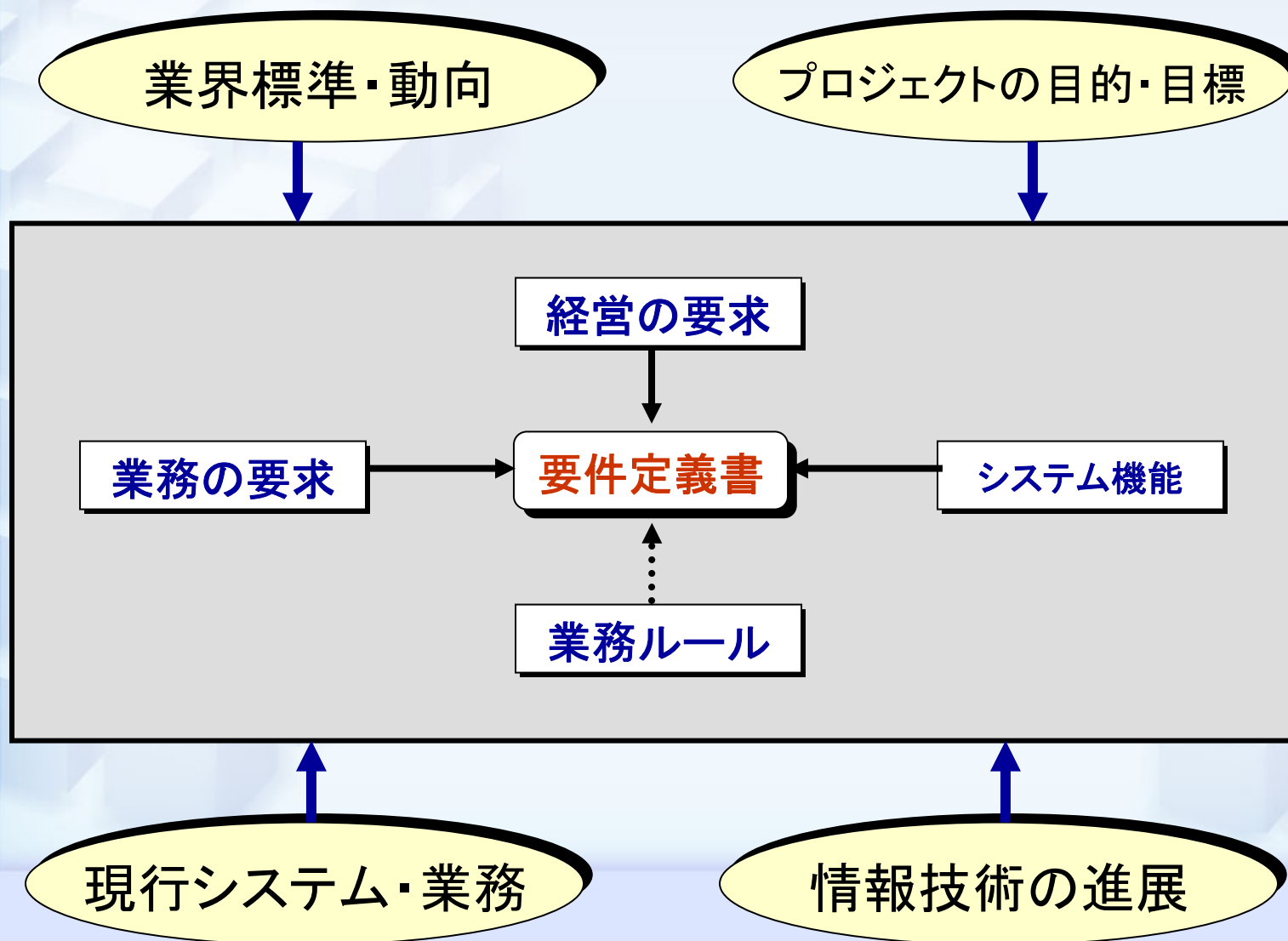
これからの要件定義のあり方

- 1-1 要件定義の背景と目的
- 1-2 顧客要求の内容と特性
- 1-3 要件定義書の記述
- 1-4 責任者の役割と品質・リスク

第1章. これからの要件定義のあり方

1-1 要件定義の背景と目的

1) 視点



1-1 要件定義の背景と目的

2) 情報システム

① 情報システムそのものが、経営のツールになってきている。

→ 情報システムに価値があるのではなく、情報システムを使用する仕組み・運用に価値がある。

② システム構築が短期間になっている。

→ 競争への対応・効果の実現から、情報システムの有効性が早期に求められている。

③ プロジェクト失敗の多くが、要件定義の成果物に起因している。

→ 顧客要求の複雑性と多様性が増しているし、システム外の要件整理の重要性が高まっている。

1-1 要件定義の背景と目的

3) 要件定義とは

要件定義とは、顧客の情報システム構築の「目的・目標・期待効果」を達成するために、必要な情報を収集し、達成すべき情報システムのモデル(システム機能・仕組み)作成とその実現に必要な条件を整えることである。

そして、その情報システムのモデル構築と稼動に必要な情報を、次作業以降に漏れなく渡すことである。

情報システムのモデル＝情報システムがビジネスプロセスの構成を担う及びりサポートする内容の定義

第1章. これからの要件定義のあり方

1-1 要件定義の背景と目的

4) 要件定義の目的

顧客のシステム構築の目的達成のために、必要な要求仕様を、顧客・システム構築者ともに理解でき合意できる具体的な要件定義書を作成する。

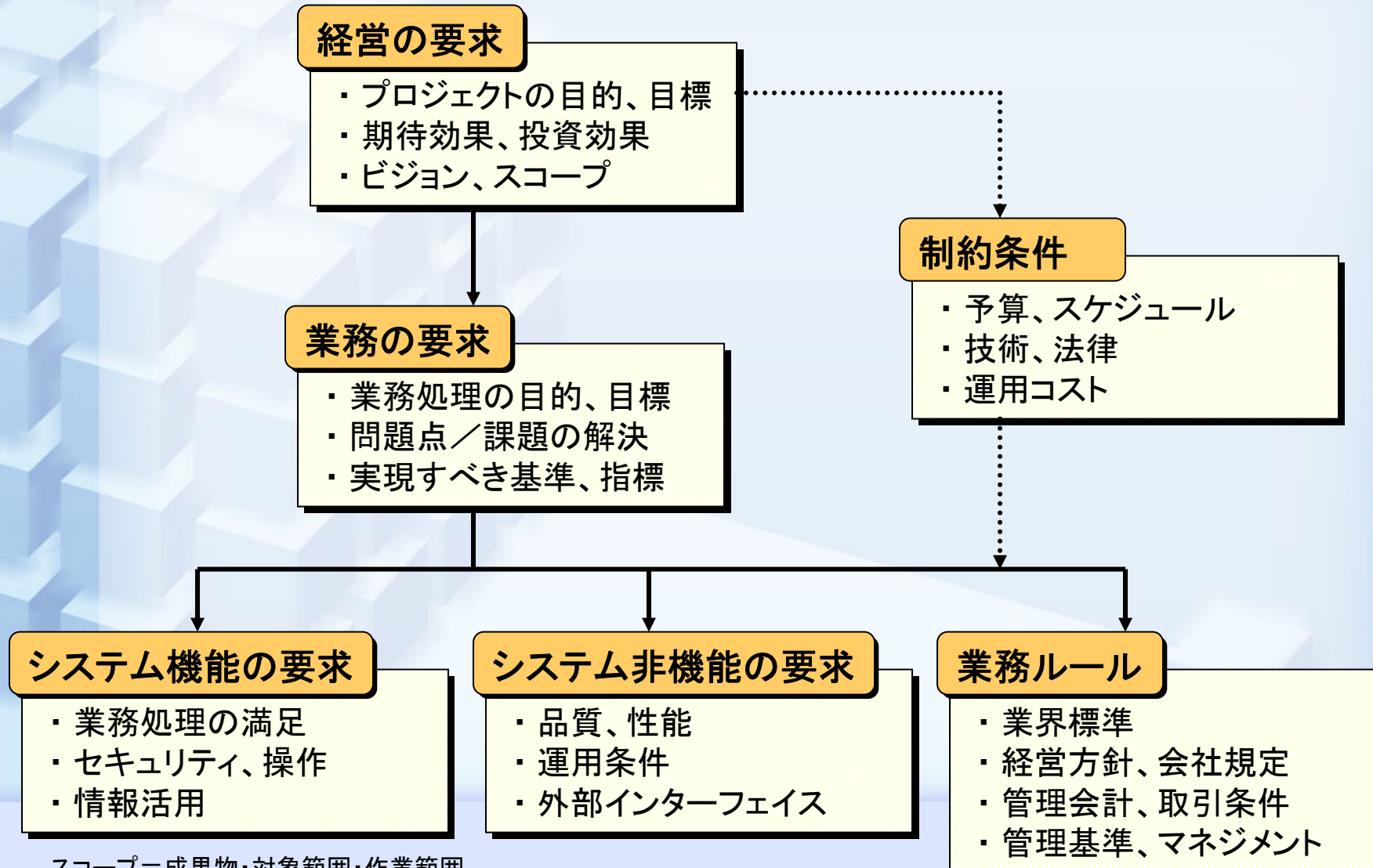
顧客要求(=プロジェクトの目的)を実現するシステム構築の条件、及びシステム稼動・運用に必要な条件を整理する。

要件定義以降の作業を確実に開始できる成果物を創る。

第1章. これからの要件定義のあり方

1-2 顧客要求の内容と特性

1) 要求の内容

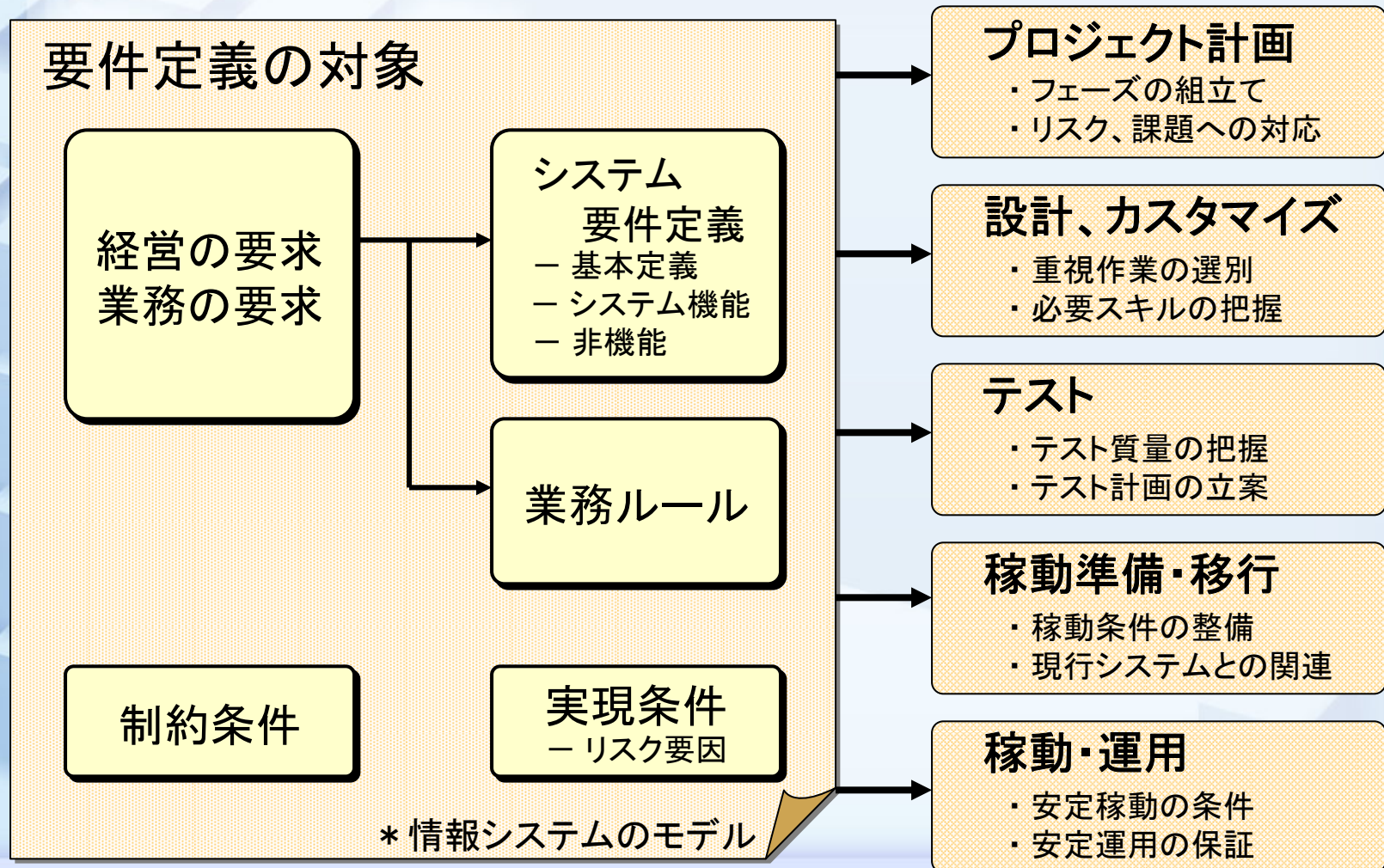


スコープ＝成果物・対象範囲・作業範囲

第1章. これからの要件定義のあり方

1-2 顧客要求の内容と特性

2) 要求内容と関連作業



* 要件定義以降の作業を考慮した要件定義書作成がベターである。

1-2 顧客要求の内容と特性

3) 要求の特徴と対応

要求の特徴

- ・ 体系的でなく個別的である。
- ・ 具体的でなく抽象的である。
- ・ 問題点が整理されていない。
- ・ 解決策が不透明である。
- ・ 目的達成に対して、漏れ・抜けがある。
- ・ 目的達成に対しての道筋がわからない。
- ・ 新しい技術を使いたい。

* まず、この要求の特徴をキチンと抽出し整理することが優先します。これなくして、最良の「対応の仕方」ができません。

対応の仕方

- ・ 「経営・業務の要求」から体系的に要件定義を構成する。
- ・ 具体的で関係者による検証（理解→確認→判断）が可能である。
- ・ 顧客が自分の業務処理として理解でき納得できる。
- ・ 次作業が曖昧さがなく着実にできる。

第1章. これからの要件定義のあり方

1-2 顧客要求の内容と特性

4) 顧客の特性と姿勢

■ 顧客の特性

- ① 情報・知識 → 同じ内容なり意味でないケースがある。
(同じ言葉でもありえる)
- ② 理解・経験 → 同じ事実・ケースに対して、異なる解釈と判断をすることがある。
- ③ 役割・責任 → 会社・組織において、違った立場にある。

■ 要件定義作業への姿勢

- ① 目的・目標 → 異なった要望・要求・期待感・責任感をもつ。
- ② スコープ → 担当分野なり立場からの判断・意見をもつ。
- ③ 基本手順 → 自分勝手に解釈と役割を決める面をもつ。



(対応) 要件定義はこのことを前提にした、ベクトルあわせが大事になる。

第1章. これからの要件定義のあり方

1-3 要件定義書の記述

1) 対象

- | | |
|------------|---|
| ● 経営・業務の要求 | → プロジェクト目的・目標との合致 |
| ● システム関連 | → システム機能・非機能の範囲と整合性、具体性。基本定義 |
| ● 業務ルール | → 改定・追加部分、システム機能との関連性 |
| ● 制約条件 | → コスト、スケジュール、未解決事項
予算、技術、法律 |
| ● 実現条件 | → 次作業(「1-2-2)要件定義の対象」参照)
のリスク・課題への対応 |

2) 指針

- 専門用語を避け、**顧客の用語**を使用する。
- 意味不明の文章でなく、**視覚に訴える表現**に徹する。
- **重点項目の整理**により、メリハリのつけた構成にする。
- 必要な情報は、**文章・絵・図解**などで網羅する。

第1章. これからの要件定義のあり方

1-3 要件定義書の記述

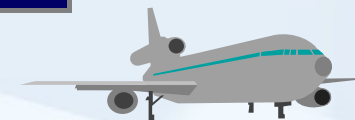
3) 基準

不明瞭でないこと	いずれの記述にもその解釈は1つしかないこと。用語が明確で、顧客に理解できる定義であること。
完全であること	重要な要求仕様がすべて含まれていること。定義項目間の整合性があり、論理的であること。
検証できること	プロジェクトの一部に指定された機能に対し、これらが適切に提供されたかどうかを判断するためのテストが用意されていること。
首尾一貫していること	特に、矛盾する用語、相反する必須処理、そして実行不可能な組合せがないこと。
修正作業が容易であること	重複部分がなく、索引や内容が正しいこと。
出所が明確であること	参照される要求仕様すべてが一意的で、事実として確認できること。
正確であること	記述された要求仕様すべてが、構築されるシステムに何らかの形で必要なものを示していること。
簡潔であること	主語・述語が明確で、論理的で意味明瞭の文章であること。顧客が分かりやすく、読んで見て理解できること。

*参考 「IEEE 830 Documentation Standard for a Software Requirements Specification」



滑走路＝要件定義



- これらを怠って離陸すると「引き返し」か「無理な着陸」が待っているのが常である。